大阪樟蔭女子大学論集第45号（2008）

昭和12年の樟蔭学園

―― 樟蔭学園草創期資料のデータベース化とその活用（７）――

白　川　哲　郎

要旨

本稿は、日中戦争の勃発によって、昭和戦前期における大きな転換期となった昭和12年に焦点をあて、樟蔭学園関係資料のうち、特に学園広報誌『樟蔭學報』に基づいて、当時の様相を明らかにしようとしたものである。

まず、1937年(昭和12)１月～翌1938年(昭和13)３月発行の『樟蔭學報』の記事を紹介し、日中戦争勃発後、それが新聞紙法適用下に移行して、社会情勢を反映した記事が増えることを確認した。そして学園広報誌にすぎなった『樟蔭學報』が、国策を宣伝・広報する媒体としての性格を併せ持つようになり、国民を戦時体制に動員する一端を担ったことを指摘した。

次に、『樟蔭學報』の「学校彙報」に載せられた、樟蔭高等女学校・樟蔭女子専門学校の教務日誌抄出記事を通して、当時の両校の実態を具体的に明らかにすることを企図した。そこでは昭和12年９月以降展開された国民精神総動員運動が、樟蔭学園においてどのように具体的に実施に移されていたかを検討し、『樟蔭學報』が国民精神総動員運動の実態面を分析する上でも貴重な資料群であることを明らかにした。

はじめに

樟蔭女子専門学校出身の作家田辺聖子氏は、1937年(昭和12)の時代状況[1)]について、次のように述べている。

> ついでにいうと、この昭和十二年前後こそ、日本の近代文化の爛熟期だった気がする。明治・大正と仕込んだ麹がやっと醗酵して、芳醇な天の美禄が醸された観がある。このへんの文学史を見るのは楽しい。昭和十一年に堀辰雄の『風立ちぬ』、太宰治『晩年』、石川淳『普賢』、十二年に横光利一『旅愁』、永井荷風『墨東綺譚』、志賀直哉『暗夜行路』、岡本かの子『金魚撩乱』、川端康成『雪国』――さらに吉川英治は『宮本武蔵』を連載中だったし、吉屋信子の、一世を風靡した『良人の貞操』も、ブームを起した川口松太郎の『愛染かつら』も昭和十二年という花々しさである。詩人に萩原朔太郎がいた、立原道造が、金子光晴が。――らんまんの春、といっていい時代だったが、戦争がすべてに水をぶっかけ、萎縮させ、凋落させてしまった[2)]。

田辺氏のこの記述は、近代文学史のみを見ても、この時期が近代文化の花開いた時期であったことを我々に実感させてくれる。そしてさらに注目したいのは、その文化が絶頂期に達した時、

日中戦争が起こり、それが「すべてに水をぶっかけ、萎縮させ、凋落させてしまった」という田辺氏の言である。日中戦争の勃発を境に、日本の文化、そして社会が大きく転換したと証言する、当時を生きた文学者の、まさに実感に満ちた言葉である。

ところで、筆者もかつて、『樟蔭學報』という樟蔭学園(以下、「学園」と記す)の学園広報誌の記事をもとに、樟蔭高等女学校(以下、「樟蔭高女」と記す)・樟蔭女子専門学校(以下、「樟蔭女専」と記す)で行われた1937年度の運動会が、日中戦争の勃発を原因として、前年度の運動会に比して、戦時色を色濃く漂わせるものに変わっていたことを明らかにした[3)]。

運動会の変化一つ取り上げてみても、昭和12年という年が、戦争の開始によって学園にとっても大きな転換の時期を迎えていたであろうことが予想される。そこで本稿では、昭和12年(度)発行の『樟蔭學報』をもとに[4)]、昭和12年の学園がどのような状況にあったかを明らかにして行きたいと思う。

Ⅰ　昭和12年の『樟蔭學報』

まず最初に、昭和12年に発行された『樟蔭學報』の記事の概要(目次)を紹介する。なお、学校の年度も考慮して、1937年１月から翌1938年３月の間に発行されたものを紹介の対象とする〔第１表参照〕。

この期間の記事について見ると、第１表備考欄に印を付けた記事が注目される。

まず、◇印を付けた記事は、昭和12年の学園特有の事情、あるいは状況に関係する記事と言えるであろう。まず第２巻第２号の伊賀駒吉郎校長の「樟蔭東高等女学校の新設に就いて」は、文字通り、伊賀校長が理事長となってこの年４月に開校することになっていた姉妹校樟蔭東高等女学校の新設に向けての記事である。また、第２巻第３号「校長先生令室柳子夫人逝去セラル」は、昭和12年３月14日に急逝された伊賀校長の柳子夫人に対して哀悼の意を表す記事である。そして、第２巻第４号の伊賀校長の「樟蔭高等女学校二十周年を迎えて」は、まさにこの年、創立20周年を迎えて、それまでの学園の発展と、姉妹校をも開校してさらなる発展を期し、創立時の理想の実現を目指す意欲を表明した記事である。なお、創立20周年の記念式典も計画されていたようであるが、いわゆる「時局」の情勢に配慮して、学園としてはそれを延期している。ただし、学園保護者会が中心となって日中戦争勃発以前より「樟蔭学園二十周年記念祝賀会」を発足させ、計画を進めていたことから、同会による式典が11月21日に行われている[5)]。

いま一つ付け加えておくならば、伊賀校長が第２巻第５号に「所謂新興宗教の流行に就て」と題して執筆した記事も、この年の学園特有の事情・状況に基づいた記事と言えるであろう。すなわち、当時、学園のすぐそば(現在の近鉄河内永和駅南側)に本部を置いていた「ひとのみち教団」が、昭和12年４月に当局によって弾圧された事件を契機として執筆されたものと推測される[6)]。記事の最後には、「要するに以上に述べた様な理由が日本に於ける所謂似而非なる新興宗教の流行する訳であるから、一般の人々は此の点に就て考へなければならぬと思う。」とある。本拠が学園の隣接地にあり、当時比較的知識人層にも広がりを見せていた新興宗教とそれに対する弾圧の影響が学園に及ぶことが無いようにと考えた記事であろう[7)]。

第１表　昭和12年(含同年度)発行『樟蔭學報』目次

巻・号	発行日	内容	筆者	備考
第2巻第1号	1月1日発行	新年の辞 九州めぐり(三) 欧州のクリスマスと歳末年始 新年吟 雪 三十輻 達磨絵の話 高女彙報 女専の学窓から	伊賀駒吉郎 森平蔵 大橋富枝 野田別天樓 上原埜歩 萬里 小林文助	
第2巻第2号	3月1日発行	樟蔭東高等女学校の 　新設に就いて 木造か鉄筋コンクリートか 九州めぐり(四) 金曜日抄 女専の学窓から 高等女学校新入生を持つ 　父兄の方へ 卒業生伊勢参宮について 文苑	伊賀駒吉郎 伊賀駒吉郎 森平蔵 古亭陳人 学報編輯部 青木勝	◇
第2巻第3号	4月1日発行	偶感 九州めぐり(五) 三十幅 春先の婦人和服コートに就て 彙報 校長先生令室柳子夫人 　逝去セラル 文苑 金曜日抄	伊賀駒吉郎 森平蔵 萬里 古亭陳人	 ◇
第2巻第4号	5月1日発行	樟蔭高等女学校二十周年を 　迎えて 九州めぐり(六) 緑翠会特輯号原稿募集 石田先生を悼む 高女彙報 東高女彙報 女専彙報	伊賀校長 森理事長	◇
第2巻第5号	6月1日発行	所謂新興宗教の流行に就て 樟太・北海道紀行 金曜日抄 電気スタンドセードの作り方手芸教室 高女彙報 東高女彙報 女専彙報 文苑	伊賀校長 森理事長	◇※
第2巻第6号	7月1日発行	個人主義と家族主義 樟太・北海道紀行(二) 真の優等生となるには 関東方面記念修学旅行記 大阪文学遺跡巡り 学校彙報	伊賀校長 森理事長 小林文助 (国文科 3年生2名)	
第2巻第7号	8月1日発行	夏期休業に就て 樟太・北海道紀行(二)(ママ) 学校彙報 　夏期休業につき保護者の 　　方々へ 　春期学芸会について 「若い人」を読む 東高女の建築に就て 同窓会のページ	伊賀校長 森理事長 後藤ひろ	 ◇
第2巻第8号	9月1日発行	日支事変に直面して 樟太・北海道紀行(四) 噫乎岡田先生 高女彙報 第四回夏期修養会 第一回富士登山 北海道旅行記 女専彙報 東高女彙報 会員名簿正誤表	伊賀校長 森理事長	※
第2巻第9号※	10月1日発行	挙国一致について 樟太・北海道紀行(五) 銃後の誠 学校彙報 同窓会のページ	伊賀校長 森理事長	※ ※
第2巻第10号	11月1日発行	挙国一致について(承前) 久邇宮多嘉王殿下薨去 　あらせらる 国民精神総動員運動について 樟太・北海道紀行(六) 学校彙報 同窓会のページ	伊賀校長 森理事長	※ ※
第2巻第11号	12月1日発行	皇軍の連勝する所以 樟太・北海道紀行(七) 学校彙報 本校創立二十周年祝賀に就て 支那漫語 第十六回運動会 銃後の学校 国民防空に就て	伊賀校長 森理事長	※ ◇ ※ ※ ※
第3巻第1号	1月1日発行	支那新政府の発生に就て 樟太北海道紀行 非常時局と新興繊維 　ステープル・ファイバー 学校彙報 女専一覧	伊賀駒吉郎 森平蔵 大橋富枝	※ ※
第3巻第2号	2月1日発行	大阪湾の水は地中海に通ず 樟太北海道紀行 百世の儀表大楠公 吉野吟行 女学校選定について 御稜威の旗風 学校彙報 　附録　伸び行くもの 　　戦禍を逃れて 　　白衣を勇士にさゝげ奉る 　　銃后の声 　　国の華	伊賀駒吉郎 森平蔵 小林文助 三枝祐龍	※ ※ ※ ※
第3巻第3号	3月1日発行	戦争とは何ぞや 樟太北海道紀行 西行を讃ふる歌 北支慰問の旅より帰りて 　(光山善雄師講演) 百世の儀表大楠公 学校彙報 武運長久卒業奉謝伊勢参宮 赤十字病院傷病将士慰問記 登山記録	伊賀駒吉郎 森平蔵 小林文助	※ ※ ※ ※ ※

第１表に関する付表(筆者に関する注)

大橋富枝：女専教授(洋裁)
野田別天樓：(本名)要吉、俳文学者
上原埜歩：？
萬里：女専教授大江文城(漢文)
小林文助：高女教諭(国語)
古亭陳人：？
青木勝：高女教護主任・女専教護係
後藤ひろ：女専教授(和裁)
三枝祐龍：高女教諭(体操)

第１表注

1)「筆者」欄(　)書きは、記事に基づき補充した。

2)「備考」欄◇印は、学園特有の事情・状況によると推定される記事。

3)「備考」欄※印は、昭和12年の社会状況を反映した推定される記事。

一方、※印を付したのは、昭和12年当時の社会情勢を反映していると推定される記事である。そのほとんどが、７月７日に起こった盧溝橋事件を契機として始まった日中戦争に関わるものである。そのうちのいくつかについては、次の樟蔭高女ならびに樟蔭女専の日々の記録と併せて言及したい。

なお、そうした記事は、夏期休業明けの９月初頭に配布された第２巻第８号以後に急に増加する。その直接的な要因の一つには、第２巻第10号から『樟蔭學報』が新聞紙法の適用下に移行したことも挙げられるであろう。同号には次のような告知記事が載せられている。

> 従来樟蔭学報は、六千数百の多数を刊行致しつゝ普通出版法により新聞紙法によつて居りませんでしたが記事の性質、内容の範囲が抑制されまして不便がありましたのが、今般本号より新聞紙法による刊行になされました。
>
> 従つて記事の性質範囲は拡張され学校の記事のみにとゞまらず、広く社会の諸般に記事をとつてよい事になりました。例へば政治的記事や時局の批評等は従来書き得ませんでしたのが、法規に触れぬかぎり自由に筆をとつてよい事になりました。新聞紙法の条項を御参考までにと思ひましたが、紙数を費しますので折があれば見て置いて下さい。

新聞紙法の適用によって、学校の記事以外に社会的、あるいは政治的な記事をも掲載できるようになったとのことであるが、逆に学園広報誌にすぎなかったものが、政府の広報誌としての意味をも併せ持つようになったと捉えることもできる。配布の対象となる在学生と保護者、卒業生に対して国策を宣伝・広報する媒体と化したという点からするならば、『樟蔭學報』は国民を戦時体制に動員するための一翼を担うようになったと見なすことができよう。

Ⅱ　学園の昭和12年

（１）教務日誌抄出

『樟蔭學報』には、「学校彙報」(「高女彙報」「女専彙報」を含む)の一つとして、学園各校の教務日誌を抄出する形で、日々の記録が掲載されている。それらによって、当時どのような行事が樟蔭高女・樟蔭女専で行われたかを窺い知ることができる。そこでまず、それらを一覧として掲げる。第２表が樟蔭高女、第３表が樟蔭女専のものである。いずれも、1937年１月から1938年３月までに発行された『樟蔭學報』の「学校彙報」に基づく。なお、両表ともに相当な分量となるが、一年間(年度)を通覧することで、昭和12年当時の学園の動向がより明瞭になると判断し、全てを掲げることにする。

第２表　樟蔭高等女学校教務日誌抄出(昭和12年１月～13年２月)

月	日	内　　容
昭和12年		
1	1	午前十時ヨリ新年拝賀式挙行／樟蔭学報第二巻第一号配布
1	8	午前九時ヨリ始業式、式直後直チニ授業開始校友会整理部各係委員改定
1	12	火曜会／三四五年生校外速歩練習
1	13	第五時限一、二年生校外速歩練習／職員会
1	15	全学年外套検査ヲ行フ／浦川教諭大阪毎日新聞社主催二月十一日女子中等学校連合音楽会打合会ニ出席

1	18	本日ヨリ廿二日マデ追考査施行／外套再検査ヲ行フ
1	22	加納教諭病気ノ為退職
1	23	廿三、四両日五年生二百十六名伊勢参宮　附添職員五年各級主任及青木教諭ノ七名／井上喜教諭府中等教育研究会体操部会ニ出席／保護者委員会
1	26	火曜会／元教諭蜂谷なを氏講話
1	27	五年生大阪府立清水谷高等女学校ニ於ケル家政研究会ニ出席／校友会整理部各係委員会／島根県立今市高等女学校教諭吾卿安子氏家事科参観
1	30	午後一時ヨリ平井氏体力実演
2	3	夕刊大阪新聞主催『吾等の学校』ニ就キテノ生徒座談会開催／互研会、榛間教諭ノ「原始仏教ノ概観」ニ就キテノ研究発表
2	6	中島教諭重川衛生婦、阪大病院ニ開催ノ視力検査講習会ニ出席／和田教諭阪大家政研究会生理衛生講演会ニ出席
2	9	映画会
2	11	紀元節拝賀式挙行
2	13	和田教諭工業館ニ於ケル規格ニ関スル座談会ニ出席
2	18	督学官倉林源四郎氏校内設備並ニ授業ヲ視察セラル／奈良県山辺実科高等女学校教諭二名、国語科家事科参観
2	19	東京市立忍岡高等女学校教諭太田ツヤ氏裁縫科参観
2	22	三枝井上久保教諭大阪府立阿倍野高女ニ開催ノ大阪府女子中等学校体育研究会講演会並ニ総会ニ出席
2	23	火曜会、午前八時大手前教育塔前ニ整列、礼拝誨告ノ後上六マデ速歩練習／生徒ヨリノ在満将士並ニ移民団宛慰問状千六百七十三通発送
2	24	第三学期裁縫科定期考査施行
2	25	五年生三越ニ於ケル家政研究会ニ出席
2	26	四年生以下級長会
2	27	五年生橘組身体検査施行
3	1	五年生桃組身体検査施行
3	2	校友会部各長会／教護係新興キネマ会社ヨリノ招待ニヨリ試写会ニ出席
3	3	本日ヨリ八日マデ五年生第三学期修身定期考査施行／二、三、四年生第三学期修身定期考査施行／互研会、田野教諭ノ「昔の大阪」ニ就キテノ研究発表
3	5	藪教諭大阪市天王寺高女ニ開催ノ大阪府女子中等教育研究会修身部会部会川村理助氏講演会ニ出席／金沢北陸高等女学校教諭宮下春氏家事科、裁縫科参観
3	6	午前九時地久節拝賀式
3	9	五年生第三学期、地理、国語、公民、家事科、追考査施行／五年生府立修徳学院、府立盲学校見学
3	10	五年生第三学期、理科、数学、歴史科、追考査施行／四年生以下本日ヨリ三日間第三学期定期考査施行／五年生府立聾口話学校、大阪地方裁判所見学
3	11	五年生大阪中央卸売市場見学
3	12	五年生陸軍大阪造兵工廠、大阪地方裁判所見学
3	13	五年生大阪中央放送局、大阪毎日新聞社見学／五年生成績判定会
3	14	校長夫人午前八時逝去セラル
3	15	五年生大阪府立測候所、大阪地方裁判所見学
3	16	卒業式予行演習／正午四年生以下全生徒校門前ニ整列、零時半出棺ノ校長夫人ノ霊柩車ヲ送迎ス。全職員五年生及ビ四年生以下各級長阿倍野新斎場ニ於ケル告別式ニ参列
3	17	臨時休業／学年主任会／地歴科担任会
3	18	午後一時三十分卒業式挙行／府知事代理トシテ木坂氏臨席／緑蔭会新入会員歓迎会
3	19	午前十時卒業生送別会／四年生以下成績一覧表提出
3	20	四年生以下成績判定会
3	22	本日ヨリ廿四日マデ第一期入学考査
3	25	午前九時第一期入学合格者発表
3	26	午後九時終業式／學報第二巻第三号交附
3	27	本日及廿八日両日第二期入学考査
3	30	午前六時第二期入学合格者発表
3	31	午前九時新二、三年教科書渡シ／午後一時新四、五年生教科書渡シ
4	2	午前八時一年生教科書及学用品渡シ
4	4	石田夕子教諭逝去セラル
4	5	午後五時玉川火葬場ニ於テ石田教諭密葬行ハル、職員及附近生徒参列

4	7	新入生制服渡シ／職員会／生徒ノ乗車ニ関スル討合会
4	8	午前八時三十分始業式／矢野明子教諭退職セラル／矢野教諭後任トシテ富永末子教諭就任／級長選挙
4	9	本日ヨリ授業開始／午前八時三十分始業／午後二時三十分終業
4	10	午前十時入学式／午後二時ヨリ樟蔭東高等女学校入学式、全職員及二、三、四、五年生徒参列
4	11	阿倍野新斎場ニ於テ午後一時三十分、石田教諭葬儀ヲ挙行セラル、全職員五年生及二、三、四年各級長其他生徒有志参列ス
4	13	学級主任会／一年生本日ヨリ授業
4	14	級長任命。学級生徒写真撮影／校友会委員選挙／浦川キヌ子教諭退職ニ付送別会ヲ行フ
4	15	本日ヨリ身体検査
4	18	盾津陸軍飛行学校ニ於テ職員有志九名練習機ニ試乗ヲナス
4	19	本日ヨリ廿三日マデ身体検査
4	20	校友会各部委員生徒氐名発表
4	22	国子忍也氐(甲陽中学在勤)音楽科嘱託ニ就任セラル
4	24	五年生風紀部会
4	26	女専、高女、東高女連合臨時朝会
4	27	靖国神社臨時大祭ノ為休業
4	28	創立記念日ノ為休業
4	29	午前十時ヨリ天長節拝賀式挙行
5	1	五年生健康診断
5	3	帽子委員会夏帽子ニ関スル協議
5	4	二三四年生大阪市立美術館ニ於ケル三聖代名作美術展覧会見学
5	7	五年生梅桃李組東京方面旅行団午前八時五分大阪駅発車、附添職員、農野、小林、富永千、高木千教諭
5	8	五年生桜橘楓組東京方面旅行団午前八時五分大阪駅発車、附添職員、青木、大森、井上喜、植田教諭
5	9	山崎教諭九日ヨリ十一日ニ至ル三日間開催ノ名古屋全国中等教育理化学大会ニ出張
5	10	本日ヨリ始業時変更　午前八時始業、午後二時終業
5	11	左ノ通リ春季修学旅行実施　一年生奈良・二年生宇治・三年生新和歌ノ浦・四年生吉野山
5	12	男教員全員青年塾堂ニ開催ノ「ロシヤ」実状講演会ニ出席
5	13	本日ヨリ、バレーボール校内試合を挙行ス／中村教諭阪大医学部講堂ニ於ケル中等学校修身科新教授要目講習会ニ出席／岡田教諭大阪女子商業学校ニ開催ノ府中等教育研究会習字部委員会ニ出席
5	14	東京方面旅行団五年生梅桃、李組午前五時廿四分無事大阪駅帰着解散／太田教諭阪大医学部講堂ニ於ケル中等学校公民科新教授要目講習会ニ出席
5	15	田野教諭中等学校歴史科新教授要目講習会ニ出席／東京方面旅行団五年生桜橘楓組午前五時廿四分無事大阪駅帰着解散
5	16	田野三宅両教諭中等学校地理科新教授要目講習会ニ出席
5	17	榛間教諭中等学校国語科新教授要目講習会ニ出席／一年生梅組野外植物採集
5	18	三宅教諭中等学校教育科新教授要目講習会ニ出席／一年生桃組野外植物採集
5	19	一年生楓組野外植物採集／本日ヨリ視力屈折異常者ノ検査ヲ行フ
5	22	午後五年生有志学級主任附添天王寺美術館ニ開催ノ三聖代美術展覧会ヲ観覧
5	23	伊賀校長上京セラル
5	25	映画会／火曜会　楠公祭当日ニ付「楠公ノ忠誠」ニ就キテ三宅教諭ノ講話アリ
5	26	朝会恩賜財団済生会ニ就キテ農野教諭講話
5	27	第一、二時限一、二、三年生映画会／第五、六時限四年生学芸会／午後一時ヨリ海軍中佐佐藤皐蔵閣下講演
5	28	一年生橘組野外植物採集
5	29	五年生三十名赤十字社大阪支部病院ニ開催ノ救急法講習会ニ出席／午後十六ミリトーキー試写会／稲垣教諭市岡高等女学校ニ開催ノ大阪府連合女子数学研究会ニ出席
5	31	五年生大阪市立東高等女学校ニ開催ノ家政研究会ニ出席
6	2	第五時限　二年生木村長門守墓参・三年生学芸会・五年生救急法実習／女子学習院助教授中村ひで氐裁縫科設備参観
6	4	バレーボール優勝試合五年楓組優勝
6	5	愛国航空週間ニ付全校職員生徒愛国切手ヲ購入ス
6	7	校友会風紀部理事会
6	8	火曜会　梅原喜太郎氐「魂の修養」ニ就キテ講話／中島三枝両教諭青年塾堂ニ開催ノ「国民体位向上ニ関スル協議会」ニ出席／重川衛生婦清水谷高等女学校ニ開催ノ「齲歯及口腔衛生」ニ関スル講演会ニ出席
6	9	四年生桜、橘、李組エンパイヤランドリー見学、附添職員田中早川教諭／二年生午後学芸会
6	10	時の記念日、伊賀校長朝会訓話

6	11	職員会／五年生学芸会／通告第五十九号渡シ
6	13	生徒有志三十五名神戸鍋蓋山ヨリ再度山方面登山、附添職員、中島、三枝、秦、井上喜諸教諭
6	14	皇太后陛下枚岡神社御参拝ニ付本校職員五名及五年生全生徒奉迎送ヲナス
6	15	三宅教諭ノ「教授案と其の整理」ニ付キテ互研会講話
6	16	映画試写会／四年生楓梅桃組エンパイヤランドリー見学附添聴(ママ)員、和田、藪教諭／三宅教諭大阪府中等教育研究会教育部主催少年審判所見学／樟蔭保護者会委員会
6	17	大阪市大谷第二高等女学校教諭岩田三千代氏裁縫科参観
6	19	午後一年生学芸会
6	21	映画会／女専高女東高女学級主任会開催
6	23	五年生有志ニ対シ英語数学国語三科ノ補習ヲ始ム／第五時限裁縫科考査／別府教諭ノ「中世紀に於ける各民族の建築及造船に見る民俗につきて」ノ互研会講話
6	24	教護係打合会
6	25	五年生清水谷高等女学校ニ開催ノ家政研究会ニ出席　附添職員田中武内教諭／級長会開催／朝会(皇太后陛下御誕辰ニ付京都皇宮ヲ遙拝ス)
6	25?	五年生家事科相互研究ノ資料トシテ午後食堂ニテ「臺所に関する小展覧会」ヲ開催／大森高木千教諭大阪市天王寺高等女学校ニ開催ノ大阪府中等教育研究会英語部会ニ出席
6	28	昭和十二年度第一学期定期考査日割発表今週中ニ全生徒操行調査ヲ行フ
6	29	樟蔭学報第二巻第六号配布
6	30	生徒被害調査及所持品検査ヲ行フ
7	1	通告第六十号配布
7	5	昭和十二年度第一学期定期考査開始本日ヨリ短縮授業／職員会
7	7	農野、中島、青木三教諭助松水泳場視察
7	8	本日ヲ以テ定期考査ヲ終了ス
7	9	映画会／朝輝、三枝教諭防空演習講習会ニ出張
7	10	午後二時ヨリ保護者会総会
7	11	富士登山参加者試練ノ為金剛登山ヲナス。附添職員中島、三枝、井上喜、久保、高木千、井上愛諸教諭、重川衛生婦
7	12	朝輝、三枝教諭ノ防空演習講話／水泳不参加職員打合会
7	13	通告第六壱号及六貳号配布
7	14	臨時職員会／創立貳十周年記念打合会
7	15	全校一斉各室備品調査／水泳参加者会、水泳不参加者会／樟蔭学報第二巻第七号及校外教護リーフレット第十八号配布
7	16	本日ヨリ第十四回水泳練習会開始ノ予定ナリシモ雨天ノ為中止、水泳参加者ハ不参加者同様ノ課業／五年生及四年生桜、橘、楓組大阪市電気局科学館見学／一、二、三年生及び四年梅、桃、李組三宅教諭ノ講話、レコード・コンサート
7	17	水泳不参加者課業／四年生梅、桃、李組及三年生大阪市電気局電気科学館見学／五年生及四年生桜、橘、楓組三宅教諭ノ講話、一、二年生写生及昆虫採集、レコード・コンサート
7	18	岡田教諭本日午前九時半逝去セラル
7	19	水泳不参加者課業／大江女専教授講演、映画会／岡田教諭自宅告別式ニ全職員及生徒総代四、五年生各組級長以下五名、四年生梅組全部参列、成績一覧表提出
7	20	終業式／臨時職員会
7	21	(21日)ヨリ三日間青年会館ニテ開催ノ精神文化講習会ニ和田、飯島教諭出席
7	24	第十五回水泳練習会終了
7	26	(26日)ヨリ二十八日マデ三日間三重県朝熊山ニ於テ第四回修養会第一次会ヲ開ク、参加生ハ三、四、五年生百二十余名、附添職員十一名／(26日)ヨリ八月五日マデ広島高等師範学校ニ於テ文部省主催ノ国語漢文講習会ニ壇辻教諭出席
7	29	(29日)ヨリ三十一日マデ三日間修養会第二次会ヲ開ク、参加生徒百十余名附添職員十一名
7	30	(30日)ヨリ八月二日マデ四、五年生七十名参加、第一回富士登山ヲナス、附添職員七名
8	2	富士登山隊無事帰校
8	9	午前八時全校職員生徒登校、遙拝式ノ後学校長ヨリ時局ニ関スル訓話アリ、午前九時半職員生徒総代二百名枚岡神社ニ参拝皇軍ノ武運長久ヲ祈願ス、満州及北支出征中ノ七部隊将兵ニ慰問絵葉書約三千五百通ヲ発送ス
8	30	七月下旬ヨリ施行中ノ本校舎塗装工事完了ス
9	1	午前八時始業式直チニ授業開始(短縮授業)／富永末子教諭四年梅組ノ学級主任ニ就ク／樟蔭学報第二巻第八号配布／第一回富士登山映画試写

9	3	西城陣之輔氏故岡田教諭後任トシテ習字科担任
9	6	一年生級長任命、校友会委員改選
9	9	職員会／五年生五十名本府教護連盟主催ノ時局講演ト映画ノ会ニ出席／軍用機献納資金並ニ在支在満ノ皇軍慰問資金トシテ女専共同職員生徒一同ヨリ金壱千五百円ヲ大阪朝日新聞社及ビ大阪毎日新聞社ヘ寄託ス
9	11	小笠原子爵講演会四、五年生聴講
9	15	職員会／上海特別陸戦隊、上海派遣陸軍、第三艦隊諸将士宛慰問状参千五百六十通を発送す
9	16	終業時刻復旧／校友会委員会
9	20	大毎ニュース映画
9	21	五年生就職希望者ニ対シ、速記法初歩及ビ珠算練習ヲ始ム／本日ヨリ女専東高女三校連合ニテ、毎日午後授業開始前運動場ニテ職員生徒全部ラヂオ体操ヲ行フ
9	22	国語科担任打合会
9	25	五年生体位向上衛生展見学／出征ノ保護者又ハ家族ノ慰問ヲ開始ス
9	29	北支戦線ノ現状講話／通学組合区名
10	1	遵法週間講話
10	2	久邇宮多嘉王殿下御薨去ニ付奉悼式ヲ行フ
10	3	通学区第十区ニ属スル生徒四十二名、皇軍ノ武運長久祈願ノ為メ八阪(ママ)神社ニ参拝
10	7	故久邇宮多嘉王殿下御斂葬ノ儀御挙行ノ時刻遙拝並ニ黙祷ヲ行フ／本日ヨリ九日マデ毎日午後一時ヨリ保護者会ヲ開ク出席者第一日ハ四百十二名、第二日ハ三百九十二名、第三日ハ四百十四名、計千二百十八名ナリ
10	11	五年生征衣裁縫奉仕作業ヲ始ム／職員会
10	13	本日ヨリ十九日マデ国民精神総動員強調週間トシテ毎日午前八時ヨリ女専東高女連合ニテ朝礼ヲ行フ、尚其日ノ標語ニ適当セル事項一ツヲ選ビ実施ス
10	17	朝礼後三校連合都留弥神社ニ参拝ス
10	18	故陸軍歩兵曹長北浦善次氏無言ノ凱旋ニ付四年李組級主任及生徒出迎フ
10	19	古賀陸軍歩兵中佐火曜会ニテ時局ニ関スル講演
10	23	壇辻教諭本月一日ヨリ国民精神文化長期講習会受講中ノ処本日ヲ以テ終了ス
10	25	午後一時ヨリ第十六回運動会本年ハ保護者ノ外入場者ナシ
10	26	本日ヨリ午前八時半始業午後二時半終業／征衣裁縫第一回分完了／伊賀校長高等女学校長会ノ為メ三十日マデ上京
10	27	全国女学生ヨリ陸海軍ヘ女学生号飛行機献納資金トシテ職員生徒金
10	30	教育勅語御下賜記念日ニ付 勅語奉読式挙行
10	31	教護連盟主催ノ映画会ニ生徒有志参加
11	3	明治節拝賀式挙行 式後体操祭ニ参加
11	4	(四日)ヨリ八日マデ四日間農野壇辻教諭文部省主催ノ国民精神文化短期講習会ニ出席
11	5	各学年秋季修学旅行実施
11	8	文部省ヨリ久住秀之助、美作小一郎両氏樟蔭財団視察メ為メ来校
11	9	第二回征衣裁縫五年生ニヨリ開始／級長会
11	10	国民精神作興ニ関スル 詔書奉読式並ニ訓話／本日ヨリ十六日マデ国民精神作興強調週間
11	11	勤倹貯蓄日 各自小遣ヲ節約之レ醵金シ傷病将士慰問資金ニ充ツ 総額金九十二円六十三銭
11	12	生活反省日 予鈴後沈黙黙想持続励行
11	13	勤労奉仕日 五年生 征衣裁縫家政研究会・四年生 都留彌神社清掃奉仕・三年生 鴨高田神社清掃奉仕・二年生 彌栄神社清掃奉仕・一年生 小阪神社清掃奉仕
11	15	御陵参拝日 職員総代及各学級級長副級長全部垂仁天皇御陵参拝
11	16	先賢遺哲講演会 火曜会ニテ講話
11	20	ニュース映画会ヲ開催
11	21	樟蔭学園創立二十周年記念祝賀会主催ノ本校、物故教職員慰霊祭並ニ記念謝恩式挙行
11	22	五年生京都皇宮、二条離宮拝観
11	24	第十六回学芸会ヲ開ク
11	26	防空演習ニ参加全校防護練習ヲナス
11	27	藪、田中両教諭奈良高師ニ於ケル家政研究会ニ出席
11	29	本日ヨリ午前九時始業、午後二時五十分終業
11	30	五年生鴨高田神社参拝
12	1	防火デー訓話
12	6	五年生定期考査開始
12	7	四年生以下定期考査開始
12	10	各学年定期考査終了

12	11	南京陥落祝賀ノ為メ午前十一時四十分校庭ニ整列、遙拝、萬歳三唱ノ後、三校連合ノ旗行列ヲ行ヒ、枚岡神社ニ参拝
12	13	本日ヨリ三日間五年生全部各一枚ヅヽ陸軍傷病将士ノ冬衣裁縫奉仕ヲナス
12	14	年末同情醵金ヲ募集す
12	15	ニュース映画会ヲ開催
12	18	第二学期各学科成績点提出
12	19	学校長以下職員五名、各組級長二十九名、大阪陸軍病院ニ傷病将士ヲ慰問ス
12	21	通告第六十号ヲ生徒保護者宛送付ス
12	22	第二学期成績一覧表及成績不良者一覧表提出／排球優勝盃ヲ五年橘組ニ授与
12	23	映画会／職員会を開く／五年生全部ニ対シ征衣二枚ヅヽノ材料ヲ交附ス
12	24	終業式／早川、井上(愛)両教諭ノ送別式ヲ行フ
昭和13年		
1	1	午前十時新年拝賀式挙行、森理事長、朝田理事臨席
1	8	午前九時より大掃除／午前十時より始業式、式後近藤教諭新任式／全校生徒絵葉書に皇軍慰問文を浄書す、武内教諭二年橘組主任に就任、樟蔭東高女山尾、大山両教諭本校国語科兼任
1	10	第三学期授業開始
1	11	火曜会／神社参拝　五年生　小阪神社、彌栄神社・四年生　鴨高田神社・三年生　津留彌神社／左の通皇軍慰問状を発送す。 松井部隊長(北満)宛　一四〇三通・北支派遣軍司令部(天津)宛　一三九三通・南支派遣軍司令部(上海)宛　一三六八通・第三艦隊航空戦隊司令部(上海)宛　一三八二通、計五五四六通
1	12	五年生学級主任会／第五時限三年生以下校外速歩練習
1	13	恒成教諭大阪府下連合音楽会打合会の為大阪毎日新聞社に出席
1	14	臨時職員会
1	17	臨時職員会
1	18	樟蔭学報第三巻第一号配布
1	21	五年生二百十七名、小林教諭外五名の職員に引率せられ、午後伊勢参宮の為め出発
1	22	全校生徒より傷病将士慰問の為め雑誌を醵出す。総計一一四五冊
2	1	火曜会に校舎庭園の美化作業をなす／中村教諭府中等教育研究会修身部会に出席一年生に関する訓育打合会を開く
2	2	朝会、戦時の特殊性に関する訓話／三年生以下校外速歩練習
2	4	本日ヨリ二日間和田教諭帝大衛生講習会に出席
2	5	五年生の校友会役員任期調査をなす
2	6	職員八名青年塾堂に於ける時局講演会に出席／生徒有志中島三枝教諭引率当麻寺二上山方面に遠足
2	8	一年生に関する訓育打合会を開く
2	9	三校連合職員会
2	10	映画会、愛国行進曲練習／大江女専教授の弘道館記の講演会を開く
2	11	紀元節拝賀式並に帝国憲法発布五十年記念式を挙行す森理事長臨席／本日より十七日まで国民精神総動員強調週間として耐寒鍛錬運動を実施す／左の通り各神社に参拝す。 小阪神社　一年生・彌栄神社　二、三年生・津留彌神社四、五年生／校友会音楽部生徒(四、五年生百五名及び五年生戸田いと)恒成教諭に引率せられ中央公会堂に於ける府下女子中等学校紀元節奉祝音楽会に出演す／樟蔭学報第三巻第二号を配布す
2	15	二年生訓育に関する打合会を開く
2	17	祈年祭に関する訓話あり左の通り各神社に参拝す。 鴨高田神社　一年生・津留彌神社　二、三年生・小阪神社四、五年生／大江女専教授の弘道館記述義に関する講演会を開く
2	18	前週実施の耐寒鍛錬運動を本日より毎朝始業前に続行す／夕刊大阪新聞社主催の学校見学団二百余名来校
2	19	田野教諭府中等教育研究会歴史部会に、稲垣教諭同数学部会に出席／五年生左の日割により大阪地方裁判所を見学す。 十九日　桜組、廿一日　梅組、廿五日　橘李組、廿六日　楓桃組
2	22	三年生の訓育に関する打合会を開く／級長会を開く
2	23	五年生家政研究会に出席
3	1	入学願書受付(～5日)
3	3	五年生考査(～5・6日)
3	6	地久節拝賀式
3	8	四年生以下考査(～11日)／五年生征衣裁縫及社会見学(・10～12日)
3	10	陸軍記念日
3	12	四年生以下授業(・14日)
3	15	卒業式練習／大掃除

3	16	生徒臨時休業／生徒役員登校
3	17	卒業式／緑蔭会歓迎会
3	18	卒業式送別会
3	21	春季皇霊祭
3	22	入学考査(～24日)
3	25	入学考査発表
3	26	終業式
3	31	教科書渡シ 午前新二三年生・午後新四五年生

第3表　樟蔭女子専門学校教務日誌抄出(昭和12年1月～昭和13年2月)

月	日	内　　容
昭和12年		
1	1	四方拝の拝賀式を行ふ
1	8	始業式を行ひ後級茶話会を開く
1	16	校友会委員会を開く
1	18	朝会流行と風俗に付て校長の訓話あり
1	20	家政科、技芸科各三学年大阪地方裁判所見学／家政科二学年ベルベット石鹸工場見学
1	21	大阪朝日新聞の主催にて家政科技芸科三学年八名にて座談会を開き大阪地方裁判所見学座談会を開く
1	22	各科学会委員会を開く
1	23	俳句会を開く
1	25	朝会、校長より流行と風俗について(第二回)訓話あり
1	30	平井氏の体力養成体験談及実演あり／短歌会を開く
2	1	朝会校長より内閣更迭事情に付訓話あり／加納教諭後任トシテ奥浦義一教諭就任
2	2	文部省より十九日家政科三学年に対し家事科の臨時検定を行ふべき旨通知あり
2	8	朝会校長より日本国民性について訓話あり
2	9	午後映画鑑賞会を開く「真白き富士の根」
2	11	午前十時紀元節の儀式挙行
2	12	家政科技芸科三年の身体検査を行ふ
2	13	文芸部阿部忠三氏指導短歌会を開く
2	17	朝輝教授外職員三名各級長を引率して大軌社長金森氏の告別式に参列
2	18	文部省督学官倉林氏樟蔭高等女学校視察の序を以て本校設備を参観さる
2	19	文部属臼井亨一氏来校家政科三年に対し家事科の学力検閲を行はる
2	20	野田別天楼氏指導俳句会を開く
2	23	学級会を開く
2	24	後期試験時間を発表す／午後三時より高女と合同職員会を開く
3	1	満州建国五年祭につき校長の訓話あり／入学願書本日ヨリ受附を始む
3	4	後期試験開始、十二日終了
3	5	本日ヨリ七、八、九、十一、十二日の六日間試験
3	6	地久節の儀式挙行／家政科築山フミ氏(旧姓)死去に付弔電を発送す
3	8	家庭科第一回卒業生柄木笑子死去に付祐源教授告別式に参列
3	16	伊賀校長令夫人永眠せられ告別式を行はるゝに付職員各級長及び上級生全部参列す
3	17	卒業成績判定会を開く
3	20	午後一時より卒業式を挙行す／緑翠会新入会員歓迎会を開く
3	21	職員卒業生京都へ旅行
3	25	家政科卒業生西山光子氏死去に付弔電を発す
3	26	進級試験成績判定会を開く
3	28	家庭科卒業生塩川須恵子氏死去に付上原小宮山両教授告別式に参列
3	31	徳山講師、山下、上田、塚本の三助手退職
4	3	神武天皇祭
4	9	職員会を開く／實金三恵子、岩本慶代、村上典子、小林七三子氏の四氏本校助手に新任
4	10	始業式を行う
4	14	家庭科卒業生菅原静子氏死去に付有吉教授弔問
4	17	本年度級長任命される／仝校友会委員依嘱せらる／中西講師辞任

4	20	職員会を開く。
4	22	各科一年の身体検査を行ふ(授業の傍二十六日まで)
4	26	各科学会を開く。／校長より靖国神社祭典につき訓話あり
4	27	靖国神社臨時祭典につき休業
4	28	本校創立記念日に付休業
4	29	天長節、午前十時拝賀式を行ふ　校長より　今上天皇陛下の御聖徳について講話あり／中西講師の告別式を行ふ
4	30	学級写真撮影
5	3	緑翠会委員会を開き春季総会につき協議す／本週中に各学級茶話会を開く
5	4	学報第二巻第四号発刊、生徒に配布す
5	5	京都愛宕山清瀧嵐山方面に春季旅行を行ふ。参加生徒四百十六名。
5	8	阿部氏指導短歌会を開く／藤村講師経済学担当本日より出勤
5	10	家庭科第一回卒業生高島淑子氏死去に付弔詞及弔慰料を贈る
5	11	校友会委員会を開く
5	13	国文科生徒文楽座見学
5	14	天王寺美術館に陳列の三聖代名作美術展覧会見学
5	15	野田氏指導俳句会を開く／元講師田中勝之丞氏告別式あり伊賀校長、上原、朝輝、両教授及国文科卒業生有志参拝
5	19	風紀部部長会を開く
5	21	樟蔭学報第二巻第五号を配布す
5	22	学級主任会を開く
5	25	午後映画鑑賞会を開く
5	26	国文科生徒、木谷蓬吟氏の指導にて大阪市内文学上の古蹟見学(三回)
5	27	海軍記念日に付佐藤海軍中将の欧州大戦に於ける実戦談を聴く
5	30	緑翠会総会を開く卒業生百五十六名出席
6	1	技芸科三年着附の講習会を開く
6	2	生徒の眼底検査を行ふ
6	5	野田氏指導俳句会を開く
6	7	職員生徒全部愛国郵便切手を購入す
6	8	校友会委員会を開く／安部氏指導短歌会を開く
6	12	皇太后陛下奉迎送ニツイテ伊賀校長ノ訓話アリ尚朝輝教授、青木監護係ヨリ諸般ノ注意ヲナス
6	14	皇太后陛下枚岡神社へ御参拝アラセラルヽニ付各科二三年生百七十三名及ビ職員総代五名奉迎送ヲナス
6	15	技芸科三年着附講習会終了
6	16	午後映画鑑賞会ヲ開ク
6	17	午後家政科、技芸科三年天王寺美術館ニ展覧中ノ蠟纈見学、和田教授指導
6	18	午後国文科二三年生大阪市内、文学上ノ古蹟見学上原教授指導
6	20	朝会校長ヨリ室内ノ静粛ニツイテ欧米ノ例ヲ引イテ訓話アリ／第六時映画鑑賞会ヲ開ク
6	22	武井高女教諭母堂永眠ニ付職員及生徒総代告別式ニ参列
6	28	上原教授ヨリ健康増進ニツイテ訓話アリ／樟蔭学報第六号ヲ生徒ニ頒布ス
7	2	家政科二年陶器工場、及ビ友禅工場西陣工場見学ノ為京都へ旅行、和田、古澤両教授指導
7	3	野田別天楼氏指導、俳句会を開く
7	5	本日より短縮授業とし、第一時の課程を省く
7	7	各科二、三年生、大阪電気科学館を見学す
7	8	各科一年生、大阪電気科学館を見学す
7	9	第一時映画鑑賞会を開く／安部氏指導、短歌会を開く／職員会を開く
7	10	生徒保護者会を開く
7	12	校長より日支国交危殆の現状について訓話あり。後、朝輝教授より防空演習について心得べき事項を説話せらる
7	14	在満支皇軍慰問袋資金を大阪毎日新聞に寄託す
7	15	終業式を行ふ／樟蔭学報第七号を頒布す
7	16	上級生有志五十七名、朝輝、守田、有吉、三教授引率北海道旅行の途に上る(十六日間の予定)
7	19	岡田講師昨日死去せられしを以て本日告別式を行はる。職員及生徒代表緑翠会代表者参拝す／本校内にて全国購買組合の家事講習会開催せらる
7	29	飯山書記令室永眠せられしに付職員有志及生徒代表告別式に参列す

8	1	樟蔭高女職員谷口氏母堂永眠に付き職員有志告別式に参列
9	5	午前九時職員会を開く
9	6	午前八時始業式を行ふ、時局に関する道徳経済思想の諸問題につき校長の訓話あり／西城講師の新任式を行ふ／生徒の同居家族にして軍隊に応召せるものを調査す。現在の所十一名あり
9	7	軍用機資金在満支将兵慰問金を募集す。醵金四百七円六十六銭
9	10	献納及慰問金を大阪朝日、毎日両社に寄託す
9	11	第三時より海軍中将小笠原子爵の「東郷元帥と和歌」と題する講演を聴取す
9	13	各科一年級校友会役員選挙を行ふ
9	14	校友会委員会を開く
9	16	短縮授業を廃し普通授業をなす
9	18	本年三月の卒業生に対し中等教員免許状を下附せらる
9	20	午後支那事変ニュース映画を観覧す
9	21	本日より午後始業前ラヂオ体操を行ふ／技芸科三年有志教授引率斎藤和服裁縫部見学
9	22	各職員は生徒同居家族にして軍隊に応召せし留守宅を慰問す
9	25	緑翠会委員会を開き非常時局に際し奉仕方法につき協議す
10	1	久邇宮多嘉王殿下御薨去遊ばされたる付一同謹て敬弔の意を表し奉る
10	2	学報九月号を配布す
10	7	臨時休業
10	8	本日より前期試験を開始す
10	13	午後職員会を開く／国民精神強調週間第一日「時局生活の日」／本日より一週間始業時間を午前七時四十五分とし八時よりラヂオにより国民朝礼を行ふ
10	14	国民朝礼を行ふ。「出動将兵へ感謝の日」
10	15	国民朝礼を行ふ。「非常時経済の日」／前期試験終了
10	16	国民朝礼を行ふ。「銃後の護の日」
10	17	国民朝礼を行ひ終わりて都留弥神社に参拝し宝祚の無窮を祈り奉ると共に国威の宣揚と皇軍の武運長久を祈願す
10	18	国民精神強調週間　「勤労報国の日」　大掃除を行はしむ／国民朝礼を行ふ
10	19	生徒の勤労奉仕の一端として、用シャツ及ズボン下を生徒に調整せしむ
10	20	第五時運動会の練習をなす／元家政科一年松原恒子死亡、同クラス有志生徒告別式に参列す
10	24	校長、全国高等女学校長会及文部省主催日本文化学会人文学会講習会に出席の為上京
10	25	樟蔭高女、樟蔭東高女と合同にて秋季運動会を開く
10	26	全国中等専門学校合同献納飛行機資金を醵金し、職員醵金と合せ全国高等女学校協会宛送附す
10	27	国文科二、三年生山口教授引率万葉地理研究の為飛鳥方面へ旅行す
10	28	午後校庭に集り、上海に於ける皇軍の大捷を祝して、陛下の萬歳を三唱し、皇軍の武運長久を祈る
10	30	教育勅語奉読式を行ふ
11	1	支那事変に対する世界各国の動向に就て、校長の訓話あり
11	2	午後事変ニュース映画を観覧す／午後三時より保護者委員会を開く
11	3	明治節の儀式を挙行す／上原教授文部省主催日本諸学振興委員会第一回国語国文学会に出席の為上京(七日帰校)
11	8	校長ヨリ日支事変の進展、状況、及三国防共協約に就て訓話あり／本校財団調査の為、文部省より美作、久住両属来校
11	9	校友会委員会を開く
11	10	国民精神作興に関する詔書奉読式を行ふ／本日ヨリ十六日迄国民精神作興週間に付質実剛健、生活の反省、勤労報告(ママ)、勤倹貯蓄を生活上に具現実践せしむべき事項について訓話す／家政科三年和田教授授引率午後三越展覧の纐纈染見学
11	11	家政科二年祐源教授引率布施市経営住宅展覧会見学／技芸科三年和田教授引率、午後三越展の纐纈染見学
11	12	級主任より国民精神作興週間に実践すべき事項につき級生徒に訓話をなす／第六時加藤教授より上級生に京都御所及び二条離宮につき謹話をなす
11	13	特に校内の清掃をなさしむ
11	15	職員生徒一同神武帝御陵橿原神宮及談山神社に参拝す／上原教授大学専門学校生徒主事会に出席す
11	16	上級生百十五名竹村有吉小宮山三教授引率京都御所、二条離宮及び西本願寺書院拝観
11	18	技芸科一年生赤井環兄、幸一氏戦死葬儀を行はるるに付香奠及び弔詞を贈る
11	19	家政科三年古澤教授指導午後二幸菓子工場見学

11	20	支那事変ニュース映画観覧／安部氏指導短歌会を開く／家庭科二年中村氏指導着附講習会を開く
11	21	生徒保護者有志本校創立二十周年祝賀式を挙げらる
11	22	朝会、支那事変の現況、及国民政府と西南派との関係等につき校長の御訓話あり／防共三国協調祝賀会打合の為、飯山書記大阪医大へ出張
11	23	新嘗祭
11	24	第三時より樟蔭高女学芸会鑑賞
11	25	午後空襲避難演習を行ふ／家庭科二年着附講習会を開く（第二日）
11	26	第五時空襲焼夷弾投下避難の演習をなす
11	29	朝会、日独伊三国防共協定の由来、及效果について校長の訓話あり／本日より始業時間を午前九時に変更す／午後大阪府大学及高等専門学校職員生徒の日独伊防共協定祝賀式を中央公会堂にて行はわれたるに付、本校職員及び二年以上の生徒一年校友会委員参列
11	30	家庭科二年着附講習会本日終了
12	1	国民精神総動員防火デーに付第四時後防火についての講話をなす／家政科一年午後古澤教授指導中央市場見学
12	2	学級会を開く
12	3	家政科二年第二時後、長谷川、古澤両教授指導吹田ビール会社及び二幸製菓工場見学
12	6	文展見学の為京都市へ旅行
12	7	校友会委員会を開く
12	9	年末同情義金募集／家庭科第五回卒業宮前京子死去、弔電及香奠を贈る
12	10	職員会を開く
12	11	南京陥落祝賀の意を表し午後旗行列をなし、枚岡神社へ参拝す
12	13	朝会、南京陥落に関する校長の訓話あり
12	14	野田別天楼氏指導俳句会を開く
12	15	午後支那事変ニュース映画会を開く
12	16	年末同情義金を朝日、毎日両新聞社に委託す／関西の各高等女学校へ入学案内を発送す
12	17	古澤教授指導上級生の会食作法実習会を開く
12	18	家庭科第一回卒業生松井静子、十七日死亡、祐源教授及同窓生会葬
12	20	朝会、北支の資源について訓話あり
12	23	午前九時より終業式を行ふ。北支新政府の樹立、世界列国の動向について校長の訓話あり／十時五十分より事変ニュース映画会を開く／休暇中の注意書を生徒保護者に発送す
12	24	本日より冬期休業とす
昭和13年		
1	1	午前十時拝賀式を挙行す
1	8	午前九時十分（３月号「九時」）より始業式を行ふ。日独伊防共協定の效果及列国の動向に就て戒心すべきことを校長より訓話せらる／家政科第九回卒業生林倫子死亡、和田教授及同窓生弔問／技芸科第四回卒業生村部ツル死亡、書状を以て弔慰す／十一時より級会を開く
1	10	朝会、日支事変の重大性を加ふるに至りしこと及防空と建築に就て校長の訓話あり
1	13	福岡女子専門学校助教授岡本愛子氏来校家事授業参観
1	17	朝会、日本の対支方面声明に就きて校長の訓話あり
1	24	朝会、議会に於ける日支事変の論議及び英米の新動向について訓話あり／奈良県郡山高等女学校教諭佐竹勝治郎氏来校
1	25	校友会委員会を開く／神戸女学院教師、セラ・エム・フヰルド氏及新田綾子氏来校家政科参観／校友会各部委員会を開く
1	27	大江講師の弘道館述儀講話あり職員聴講
1	31	朝会、戦争は単に武器を以て相戦ふのみにあらず総ての行政機構が軍によりて統制せらるゝ状態にあるものなることを校長より訓話せらる
2	7	朝会、内蒙古に就て校長の訓話あり
2	9	職員会を開く／校長より筆国精神強調週間実施方法について御話あり
2	10	第一、二時事変に関する映画会を開く／第五時級会を開き筆国精神強調週間の精神及実施事項について訓話す／第六時大江講師の弘道館述儀第二回講話あり
2	11	紀元節の儀式を挙行す／本日より筆国精神強調週間に入るを以て伊勢神宮及び宮城遙拝、ラヂオ体操、武運長久祈願、皇軍将士感謝、黙祷愛国行進歌合唱等を行ひ後郷社鴨高田神社に参拝す
2	12	本日より一週間午前八時三十分耐寒鍛錬運動を行ふ
2	15	上原和田両教授生徒代表五名を引率し赤十字社に傷病兵を慰問し雑誌を寄贈す
2	17	祈年祭に就て校長の訓話あり午後彌栄神社参拝す

2	18	家政学会を開き下田博士を聘して食物研究上の講話を聴取す
3	3	臨時休業
3	4	試験(・5・7・8・10・11日)
3	6	地久祭
3	9	臨時休業
3	11	試験終了後大掃除／上級生追試験出願
3	12	卒業追試験(14日)
3	16	十一時予餞会、後卒業式練習
3	17	卒業成績通知
3	19	午後卒業式
3	21	春季皇霊祭
3	28	進級成績通知

第２表・第３表　注
１)表中の「／」は、別項目となることを示す。
２)用字は適宜、現在使用されている文字に改めた。
３)同一日の同一行事が、複数の『樟蔭學報』に掲載されている場合は、それらを総合して記述した。
４)昭和13年3月の記事については、『樟蔭學報』第３巻第3号に掲載されている予定を記載した。

(２)国民精神総動員運動と樟蔭学園

第２表・第３表の本格的な考察は別途行うこととして、特に目を引く注目点を若干指摘しておきたい。

既に述べたように、新聞紙法が適用されるようになって以降、『樟蔭學報』にも、いわゆる「時局」関連の記事が増加する。第２巻第10号表表紙裏面に掲載された９月９日付け内閣告諭は、まさに象徴的な記事と言える。これは、８月24日に近衛文麿内閣が決定した「国民精神総動員実施要綱」に則って布告されたものである。そして同号には、文部省が翌９月10日付けで発令した「国民精神総動員実践事項」[8]に基づいて大阪府が策定した「国民精神総動員実践事項」も掲載されている。『樟蔭學報』が国民の戦時体制への動員に果たした役割の一端を垣間見ることができよう。

日中戦争が始まると、政府は、マスコミの報道によって、この戦争が「暴支膺懲」の聖戦であると宣伝し、国民からの戦争支持を得ようとした。しかし、「暴支膺懲」といったスローガンによってのみ国民を戦争に動員することは困難であったし、戦争が生活に及ぼす影響や戦死者が相次ぐことで、国民からの戦争支持を盛り上げることはなかなか困難であった。そうした状況下において、国民を恒常的に戦時体制に動員するため実施されたのが、国民精神総動員運動であった[9]。

この国民精神総動員において、10月13日(戊申詔書発布の記念日)から19日に至る一週間が、「国民精神総動員強調週間」となされた。その実施要綱[10]によれば、「生活刷新ノ一般的項目ノ決定通知」やポスター、ビラの作成配布などとともに、午前８時から10分間ラジオで「国民朝礼ノ時間」が放送された。番組の内容は、①音楽、②国歌、③遙拝、④講話、⑤ラジオ体操の順となっていた。また13日「時局生活ノ日」、14日「出動将兵ヘノ感謝ノ日」、15日「非常時経済ノ日」、16日「銃後ノ護ノ日」、17日「神社参拝、殉国勇士ヲ讃ヘルノ日」、18日「勤労報国ノ日」、19日「非常時心身鍛練ノ日」という日替わりのテーマで放送番組の特別編成がなされた。

これに関連して注目されるのが、第３表10月13日～18日の記事である。樟蔭女専では、始業時間が午前７時45分に繰り上げられ、午前８時からラジオによる国民朝礼が行われている。そして、

17日には、番組の特別編成のテーマに則る形で、国民朝礼後、都留彌神社に参拝している。第２表同期間の記事からは、樟蔭高女でもそれが合同で実施されていたことが判る。加えて、『樟蔭學報』第２巻第10号の「学校彙報」の中にも「国民精神総動員強調週間の実践」と題して、その実施状況を伝える次のような記事が載せられている。

国民精神総動員運動実践の一手段として総動員強調週間が十月十三日より十九日迄一週日(ママ)にわたり行はれたが、我樟蔭高等女学校、女子専門学校、東高等女学校に於ても運動の主意を体し、十三日より毎朝午前七時四十五分登校、校庭に集りて国民朝礼に参加し国歌斉唱、皇居遙拝講話静聴の後ラヂオ体操を行ひ又各日定められた項目に従ひ十七日には都留彌神社に参拝して祈願をこめ、十八日勤労報国の日には校内外の清掃をなす等意義深く過した。

学園各校において、「国民精神総動員強調週間」の取り組みが忠実に実施されていたのである。

同様に、政府は「明治節奉祝及国民精神作興週間実施要綱」[11)]を定めて、その実施を命令している。それによれば、まず明治節(11月３日)には、従来通り「奉祝式」や「祝賀式」を行うとともに、午前９時を期して「国民奉祝ノ時間」を設定し、ラジオ・汽笛・サイレン・鐘などを合図に全国一斉に宮城遙拝を行うよう命じている。次に国民精神作興週間に関しては、11月10日に始まる一週間、「国体ノ本義ヲ明ニシ、日本精神ノ体現ヲ期スルコト」、「国民精神作興ヲ日常生活ニ具現セシムル為各般ノ実践事項ノ実践ヲ強調」することが定められている。第３表11月10日の記事によれば、樟蔭女専では、「国民精神作興に関する詔書奉読式」が行われ、また、「本日ヨリ十六日迄国民精神作興週間に付質実剛健、生活の反省、勤労報告(ママ)、勤倹貯蓄を生活上に具現実践せしむべき事項について」の訓話が行われていたことが確認される。第２表同日の記事から推測すれば、これも合同で実施されたと推定される。

さらに、昭和13年２月11日(紀元節)から２月17日に至る一週間は、実施要綱[12)]が定められ、第２回目の「国民精神総動員強調週間」とされた。実施要綱によれば、紀元節を機として「国体観念ノ明徴、日本精神ノ昂揚ヲ強調シ」ようとするものであった。実施方法については、第１回目および作興週間のそれを踏襲するもので、式典の実施、ラジオにおける「紀元節奉祝ノ時間」の放送と週間中の放送の特別編成、「週報」特輯号の発行などあったが、以前に比べて地方における実施方法が詳細になっていた。例えば、地方実行委員会を開催し、その積極的活動を促したり、各種団体の活動も促している。また、運動の重点を都市に置くことも明記されている。さらに、「学生生徒児童其他ニ於テモ愛国行進其他団体運動ヲ行フコト」や、国体や日本精神に関する講演会や座談会の開催が命じられている。そして、各種の集会や行進等で「愛国行進曲ヲ合唱スルコト」も定められている[13)]。

これに関連して、第２表２月11日の記事から樟蔭高女では、紀元節拝賀式が挙行されたこと、国民精神総動員強調週間の一環として耐寒鍛錬運動が実施されたこと、同じく近隣の神社に参拝したこと、そして、校友会音楽部生徒らが大阪府の女子中等学校紀元節奉祝音楽会に出演したことなどが判る。同様に第３表同日の記事から樟蔭女専では、紀元節の儀式が行われたこと、筆国精神強調週間の一環として、伊勢神宮及び宮城遙拝、ラジオ体操、武運長久祈願、皇軍将士感謝黙祷、愛国行進歌合唱等が行われ、その後、郷社鴨高田神社に参拝したことが判る。

式典の実施は従来通りのこととしても、実施要綱に忠実に、宮城遙拝や愛国行進曲の合唱などが実施され、近隣神社への参拝も実施されているのである。このうち愛国行進曲の合唱について言えば、前日、樟蔭高女でも練習が行われていることが第２表２月10日の記事から判る。樟蔭高女・女専をあげての実施であったことは間違いないであろう。また、大阪府女子中等学校紀元節奉祝音楽会への出演も、先に引用した「学生生徒児童其他ニ於テモ愛国行進其他団体運動ヲ行フコト」という命令に合致するものと言えよう。

またここで注意したいのは、国民精神総動員強調週間の一環としてラジオ体操が実施されていることである。先に紹介した昭和12年10月の第１回「国民精神総動員強調週間」のラジオ放送による「国民朝礼ノ時間」においてもラジオ体操がプログラムの中に位置付けられていた。ラジオによる「国民朝礼」を実施した学園でも、実際にラジオ体操が行われていたことは既に紹介した通りである。高橋秀実氏は、「文部省は『国民精神の作興』を目的とした『国民心身鍛練運動』なるキャンペーンを実施した。その最重点項目に、精神具現が非常にやりやすく、わかりやすい毎朝のラジオ体操を挙げたのであった」と述べている[14]。ラジオ体操と国民精神総動員運動とは密接な関係にあった。そうした観点からするならば、第３表９月21日の「本日より午後始業前ラヂオ体操を行ふ」という記事も、単なる健康増進といったような目的からの実施と見るよりは、国民精神総動員運動との関係から位置付けてみる必要があるかもしれない。樟蔭女専の生徒たちは、意識するかどうかとは無関係に、オブラートに包まれたような形で戦時体制の中に組み込まれていっているのである。

このように、昭和12年(度)における樟蔭高女・樟蔭女専の日々の記録を一覧すると、政府の国民精神総動員運動を学園側が忠実に実施に移していたことを確認することができる。従来から、「樟蔭は軍国主義一辺倒ではなかった」[15]と言われている。けれどもそれはあくまでも比較の問題であって、当時の社会情勢からすれば、そこからの離脱は著しく困難であったと言うべきであろう。学園各校における昭和12年(度)後半の国民精神総動員運動の実施状況は、それを如実に物語っているのである。

むすびにかえて

以上、1937年１月から1938年３月発行の『樟蔭學報』の記事、特に「学校彙報」として載せられた樟蔭高女・樟蔭女専の教務日誌を抄出した記事に基づいて、昭和12年(度)の学園の具体的様相の一端を紹介した。当時の近衛内閣が推進した国民精神総動員運動に関連するほんの一部分を紹介したに過ぎず、学園において展開されたその全体像に迫ろうとするならば、第２表・第３表にしばしば見出すことができる近隣神社参拝、征衣裁縫や慰問絵葉書等の作成、また、折に触れて行われる時局にかかわる講話やニュース映画鑑賞等の具体相についても検討の俎上に載せなければならない。『樟蔭學報』には、それらに関わる記事もいくつか掲載されおり、それらを含めての検討は後日を期したい。

国民精神総動員運動始動と教育との関係について論じた小野雅章氏の研究においても、国民精神総動員運動が学校現場で具体的にどのように展開されていたか、についてまでは検討がなされ

ていない[16)]。その意味からも『樟蔭學報』のそれぞれの記事は、学校現場において、とりわけ女子教育機関において、国民精神総動員運動がどのように展開していったのか、その実態面を考える素材として極めて貴重な資料群となり得ることを再確認したいと思う。

本稿では、学園広報誌『樟蔭學報』の記事によって、1937年に始まった国民精神総動員運動の実態に関する具体的な検討が可能であることを明らかにした。『樟蔭學報』のみならず、学園に残る史料は、学園の歴史を物語る史料であるだけではなく、近代の学校教育、女子教育に関する極めて貴重な史料であることは疑いを入れないところである。

さて、2007年夏、大学キャンパス内の教室利用の見直し作業の中で、突如それまで学園資料の保管場所となっていた学園記念館１階の学園資料展示室が、資料の保管場所として使用できなくなることとなり、急遽８月から９月にかけて資料を搬出するための箱詰め作業を実施せざるを得なくなった。猛暑の中、冷房機の無い部屋で実際の箱詰め及び整理作業に献身的に従事して下さった本学日本文化史学科卒業生塚本佳世氏には、心から御礼を申し上げる。９月に入って学園記念館の補修工事が始まったが、現段階(９月末)に至っても、資料をどこに移動させるのかさえ、学園及び大学側からは公表されていない。こうした無計画な措置に対して、歴史を学ぶ者の一人としては憤りを感じざるを得ない。創立以来積み重ねてきた学園の歴史と伝統は、90年という歳月を費やして築き挙げてきたものである。しかしながら、その証しとなる資料は、理解の無い措置によって１日にして無に帰してしまうかもしれないことを認識していただきたいと思う。学園創立90周年の本年を起点として、学園関係資料の適正な保存と活用とがなされることを祈念してやまない。

〔付記〕

本稿は、2003～2007年度大阪樟蔭女子大学特別研究助成費による成果の一部である。

学園資料の閲覧については、中尾保久樟蔭学園総務部長に便宜をお図りいただいた。ここに記して御礼を申し上げます。

注

1) 昭和12年の時代状況全般に関しては、(昭和二万日の全記録第４巻)『日中戦争への道　昭和10年▶12年』(講談社、1989年)など参照。

2) 田辺聖子『楽天少女通ります　私の履歴書』(日本経済新聞社、1998年)21～22ページ。

3) 拙稿「『樟蔭學報』に見る昭和戦前期の樟蔭学園―樟蔭学園草創期資料のデータベース化とその活用(３)―」(『大阪樟蔭女子大学(学芸学部)論集』43号、2006年)232～236ページ。

4) 『樟蔭學報』は、1936年８月から1938年３月までの間、合計19巻22冊が発行された。なお、『樟蔭學報』に関しては、注３)拙稿も参照されたい。

5) 『樟蔭學報』第２巻第11号６ページ「本校創立二十周年祝賀に就て」。それによれば、式典は、午前中に物故職員26名に対する慰霊祭が行われ、午後は学校長・職員に対する謝恩の式が行われた後、「支那事変」

ニュース映画会を催すという内容であったことが知られる。

6）この弾圧事件の詳細については、池田昭『ひとのみち教団不敬事件関係資料集成』(三一書房、1977年)参照。

7）伊賀校長には、『宗教大観』(樟蔭女子専門学校出版部、1935年)という著書があり、その中でも「ひとのみち教団」等に対する批判を展開している。

8）吉田裕・吉見義明編『資料日本近代史10』(大月書店、1984年)47～48ページ。

9）日中戦争の開始から国民精神総動員運動が展開するに至る過程については、藤原彰『日中全面戦争(文庫版昭和の歴史　第５巻)』(小学館、1988年)139～150ページ、北河賢三『国民総動員の時代(岩波ブックレットシリーズ昭和史№６)』(岩波書店、1989年)など参照。

10）前掲注８)書50～51ページ。

11）前掲注８)書58～59ページ。

12）前掲注８)書66～67ページ。

13）「愛国行進曲」に関しては、前掲注１)書289ページ参照。

14）高橋秀実『すばらしきラジオ体操』(小学館、1999年)140ページ。

15）『樟蔭学園80周年記念誌』(学校法人樟蔭学園、1997年)32ページ。

16）小野雅章「国民精神総動員運動の始動と教育」(『日本大学文理学部人文科学研究所紀要』第48号、1994年。